

令和3年度 長野県観光振興審議会 議事録

1 日 時：令和3年9月21日（火）13時30分から15時55分

2 場 所：長野県庁議会棟 402 会議室

3 出席者

[委員] 阿部 かすみ、海老原 紀子、金澤 武彦、久保田 穰、小林 かおる、
竹内 正美、玉田 泉、中村 実彦、村山 香苗、柳田 清二、
山田 雄一、横山 タカ子 （敬称略）

[事務局] 観光部長 渡辺 高秀、観光部次長 宮島 克夫、
山岳高原観光課長 田中 達也、観光誘客課長 丸山 祐子、
国際観光推進室長 松本 順子

4 議事録

○若林企画幹

定刻になりましたので、ただいまから、「長野県観光振興審議会」を開会いたします。

私は、当審議会の事務局を務めます、長野県観光部山岳高原観光課企画幹の若林憲彦と申します。会長が決定するまでの間、進行を務めさせていただきます。なお、本日は、おおむね15時30分終了を目途とさせていただきますので、宜しくお願いいたします。

まず、本審議会の委員の委嘱についてご報告いたします。本審議会の委員は、お手元の「長野県観光振興審議会委員名簿」のとおり、14名の方に委嘱申し上げますので、よろしくお願いいたします。

本日、藤巻委員、矢ヶ崎委員は、所用のため「欠席」されております。

なお、「長野県附属機関条例」第6条第2項により、会議の定足数は過半数とされておりますが、本日12名ご出席ということで、定足数を満たしておりますので、ご報告いたします。

はじめに、県観光部長の渡辺高秀からご挨拶いたします。

○渡辺観光部長

皆さんこんにちは。長野県観光部長の渡辺でございます。委員の皆様には本審議会にご参加いただき誠にありがとうございます。また日頃から、長野県の観光行政にご支援ご協力を賜り誠にありがとうございます。

この審議会は新型コロナウイルス感染症の影響で2年ぶりの開催になります。委員の皆様には委員就任をお願いしてから1年以上期間が空いてしまったことお詫び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症につきましては、観光県である長野県にとりましても大きな影響をうけているところでございます。私どもとしましては、感染防止対策と観光の需要喚起策の両面を、我々はアクセルとブレーキという言い方をしておりますが、感染症の知見も蓄えながら、進めてきているところでございます。これが1年半に及び長期化する中で、第5波にあっても日帰りや宿泊の割引と言った短期的な策ではありますが需要喚起の支援が出来たところでございます。この第5波にあっては、同居の家族に限定という形になりましたけれども、宿泊割を経済の需要喚起として進めてきたところでございます。

来年は善光寺の御開帳、諏訪大社の御柱祭など大きな行事がございます。新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと意識しながら、準備を進めていきたいと考えているところでございます。

ワクチン接種につきましても、県でも大規模接種会場を設けながら進めてきているところでございます。皆様から大変なご協力を頂戴しているところでございます。また合わせて、ワクチン接種後の経済活動の検討会等を立ち上げたところでございます。

こういったことを踏まえて、依然この先不透明ではございますけれども、ワクチン接種後の経済活動も含めて、短期的、中長期的な取組について県では来年度の予算編成に入っております。また、長期的なものとしては来年度は計画の策定年度ということになります。

是非、本日は忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。限られた時間の中ではございますが本日はどうぞ宜しくお願い致します。御礼を含め私からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

○若林企画幹

つづきまして、委員の皆様には、新たな2年間の任期で委嘱をさせていただきました。本来であれば、お一人お一人をご紹介させていただきたいところですが、会議時間の都合、委員名簿により省略させていただきます。

つづきまして、会長の選任をお願いいたします。

本審議会の会長につきましては、「長野県附属機関条例」第5条第1項の規定により、委員の互選により選任することとされております。

会長の選任について、ご意見等ございましたら、ご発言願います。

○中村委員

皆さんからご意見が無いようなので私の方から提案させていただきたいと思っております。

日本観光振興協会の理事長を務めておられ、国の政策にも非常に通じておられるとともに、JR東日本長野支社長のご経験をお持ちで、県内の観光振興についてもお詳しい、久保田委員にお務めいただくのがよろしいかと思っておりますが、いかがでしょうか。

○若林企画幹

ただいま、中村委員より、久保田委員に会長をお願いしたらいかがか、とのご発言がありました。委員の皆様いかがでしょうか。

(異議なしの声)

○若林企画幹

ご異議はないようですので、久保田委員に会長をお願いすることに決定いたしました。それでは、久保田会長より一言ご挨拶をいただきます。

○久保田会長

委員として、そしてただ今ご推挙いただきましたように会長として、しっかりと職責を務めて参りたいと思います。

全国を見回してみますと、条例で観光に関する振興審議会を設置するよう定めている県というのは本当に少なく、一桁くらいだと思います。そういった意味で非常に重要な役割をこの審議会は持っていますので、皆様の積極的な発言をいただきながら職責を全うしていきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○若林企画幹

ありがとうございました。

つづきまして、会長職務代理についてですが、長野県附属機関条例の第5条第3項の規定により、あらかじめ会長が指名することとなっております。久保田会長より指名をお願いいたします。

○久保田会長

本審議会の委員を3期にわたり務めておられ、スノーリゾートの振興に取り組んでおられる金澤委員をお願いしたいと思います。

金澤委員、よろしく願いいたします。

○金澤委員

よろしく願いいたします。

○若林企画幹

それでは、ここからの議事の進行につきましては、長野県附属機関条例第6条第1項の規定により、久保田会長をお願いいたします。

○久保田会長

それでは、これより議事を進行させていただきます。実り多い審議ができますよう、皆様のご協力をお願いいたします。

まず、本日の会議は公開で行い、資料と議事録は県ホームページに掲載されますので、予めご承知おきください。

それでは、事前に事務局から連絡がありましたように、本日の会議では、新型コロナウイルスの影響により大きな打撃を被った観光関連産業の復興に向け、旅行に関する行動や意識の変化などの社会変革を踏まえ、1点目として中長期的な視点からの長野県観光のあるべき姿の方向性、2点目として当面、特に令和4年度の長野県が取り組むべき施策について、ご議論いただきたいと思います。

はじめに事務局の説明を受けた後、ご意見やご質問をいただきたいと思います。それでは、事務局から説明をお願いします。

○田中山岳高原観光課長

山岳高原観光課長の田中達也と申します。委員皆様には先週お送りしてございますが、資料を画面共有してポイントを説明させていただきたいと思っております。

最初に資料A、長野県観光の現状でございます。

タイトルに長野県観光戦略 2018 とあり、1の戦略の位置づけにも書いてございますが、こちらは平成30年度から進めております県の総合計画となります「しあわせ信州創造プラン 2.0」を具現化するための観光面における計画がこの長野県観光戦略 2018でございます。対象期間につきましては2に記載の通りでございます。平成30年度、2018年度から2022年度までの5カ年計画でございます。中身でございますが、3に大きな枠が三つございますが、第1章としまして、観光の担い手としての経営体づくりでございます。それから第2章としまして、観光地域としてのソフトハードの基盤作りでございます。さらには一番右側になります第3章ということで、世界から観光客を呼び込むインバウンド戦略。こうした大きな三本柱を施策展開として位置づけ、これまで取組を進めてきたところでございます。

この施策展開の方向としましては、その下の4主要指標ということでございまして、1番に延べ宿泊者数、2番に外国人延べ宿泊者数、ここに記載のある1番から7番を主要指標 KPI に設定し、取り組んできたところでございます。

次のページをご覧くださいいただければと思います。先ほど申し上げました、7つの主要指標の達成状況を記載させていただきました。

昨年が最新値でありまして、青の矢印は前年の2019年との比較となっております。全体の傾向としましては左側に基準値ということで2016年の数字を入れてございますが、象徴的なのは上から3番目の観光消費額の欄をご覧くださいいただければと思います。観光消費額は、しあわせ信州創造プラン 2.0にも主要指標として掲げていますが、基準値の

2016年は7,320億円で、毎年少しずつ上がり、一昨年2019年には8,769億円、右側に目標値として掲げた8,100億円をすでに上回っております。そういう意味では県としても順調にきているというのが一昨年までの感覚でありました。

ところが、言わずもがなになるかもしれませんが、右から2番目の太枠の最新値でございます。新型コロナウイルス感染症により観光関連産業が一番大きく影響を受けたと言われておりますが、軒並みこういった数値が前年と比べて下がっているというのが実態でございます。

次のページはこの主要指標に基づいた政策評価でございます。いくつか書いてございますのでポイントを説明します。一番上にございます令和2年の観光消費額につきましては7,087億円で前年と比べて1,682億円の減額で、前年の8割程度となつてございます。上から三つ目でございますが、来訪者数、宿泊者数は減少している一方で、来訪者が1回の旅行で使う消費単価は増額しております。記載がございませんので口頭で補いますと、基準年の2016年と2020年の日本人の消費単価を比較しますと1.5倍に上がっているのが現状でございます。年々少しずつ消費単価は上がってきており、要因としましては下にGo Toトラベルという記載がございますが、昨年は特にこの国の施策でありますGo Toトラベルと県の誘客施策がありまして、より高い宿泊施設にお泊まりするお客様が増えたことや、地域クーポンがございます。地域クーポンは長野県が全国で7番目に使用が多いという実績もありますので、昨年は特殊要因で消費単価が伸びたということがございます。また観光地のブランド化というのもありまして消費単価が少しずつ上がってきたということもございます。

こうした状況を踏まえまして、アフターコロナを見据えて今後は高い消費単価を維持しつつ、少しでも長く滞在できる長期滞在型の観光の推進でありますとか、信州リピーターの獲得といった取組の一層の強化が求められます。さらには海外ワクチン接種の進捗状況にもよりますが、インバウンドの回復期を見据えた戦略的な取組がより重要となってくるところでございます。

この他に参考データを添付させていただいております。意見交換の際に活用させていただければと思います。

続きまして資料Bの画面共有をさせていただきます。資料Bにつきましては昨年度来続いております、コロナ禍における本県の取組でございます。

令和2年9月であります「アフターコロナ時代を見据えた観光振興方針」を県として策定しました。方針の骨子は3本柱でございます。一つ目としましては、喫緊の課題であります安全安心な観光地域づくり。二つ目は、少しでも長く滞在していただけるような長期滞在型観光の推進。三つ目としましては、信州リピーターの創出。こういった3本柱を大きな方向性としてお示しさせていただいたところです。

補足の説明になりますが、先ほど資料Aで県の5カ年計画観光戦略2018を策定させていただいたと説明いたしました。この図はイメージで作ったものであります。

《機器不調による中断》

観光戦略 2018 において、アフターコロナ時代を見据えた観光振興方針は、推進エンジンとして位置づけたものでございます。ご覧頂いておりますのが、三本柱の一丁目一番地の安全安心な観光地域づくりということで、写真のとおり観光事業者の皆さん、バス、タクシー、電鉄も含めてですけれども、それぞれ感染防止対策をしていただいております。県としても右側でございますけれども、「信州版 新たな旅のすゝめ」として旅行者の皆さんに、距離の確保やマスクの着用、あるいはこまめな手洗いなど呼びかけてきたところでございます。

次のページです。昨年の8月には観光団体の皆様による安全安心な取組推進宣言をしていただくとともに、右側にあります全スキー場と書いてございますが、11月には全スキー場におきます、感染防止対策の共通の取組というものを発信させていただいたところでございます。

次のページです。こうした安全安心の取組を前提に県としましては、疲弊した観光関連産業に対する支援を昨年から続けているところでございます。大きくは令和3年度も昨年度も同じになります。信州安全・安心に続き宿という文字がございますが、宿の魅力向上事業ということで、宿泊事業の皆さんが既に行っている感染防止対策とか今後の新たな観光需要、アフターコロナに向けた投資に対して補助率2/3ということで支援を始めるところで、本日から申請の受付が始まっているところでございます。

こうした感染防止対策と合わせて、6番目になります。観光関連産業への支援を大きく三つ書かせて頂いております。一つ目は信州の宿県民応援前売割と書いてございます。これは前売をしていただくことで、当面の資金確保と将来の宿泊につなげていただくことを目的としております。この前売割と合わせまして県民支え合い信州割スペシャルというものがございます。当面は、長野県民と書いてございますように、感染リスクの低い同居の家族を対象にしまして、感染も少しずつ治りつつある中では長野県民全体を対象を拡大していきたいと考えているところでございます。さらに三つ目でございますけれども、信州の宿 宿泊延期割と書いてございます。対象期間は9月3日からとなっております。9月3日からは県独自の医療非常事態宣言が発出され、首都圏におきましては緊急事態宣言といったことで、多くのお客様がキャンセルされるという状況の中、少しでもそのキャンセルを繋ぎ止めるため次回の宿泊を割引く事業として宿泊延期割を行っております。こうしたことで右下に書いてございます、感染状況を見極めながら機動的に観光誘客施策を展開しているところでございます。

最後のページです。7番に書いてございます、観光振興方針の推進に繋がる新たなニーズの取込でございます。先ほどからご説明しております感染防止対策、観光の需要喚起策に加えてとなりますけれども、新たなニーズとなりますが主に4点を記載させて頂いております。観光地域づくりの推進ということで世界のリゾート地と競い合う通年型の山岳高原リゾートの形成に取り組むとともに、下にございますユニバーサルツーリズム

ムにより多くの方が観光に参加いただけるよう形を作っていくこと。さらに三つ目でございますけれども信州リゾートテレワークの推進ということで社会変革を好機と捉え、首都圏に近いという長野県の強みを活かして信州リゾートテレワークというものを進めていくということでございます。最後ですが日本みどりのプロジェクトの推進と記載させて頂いております。自然の資源、みどりを核にして、都市と地方が連携して市街地の緑化ですとかSDGs、あるいはゼロカーボンといったことを意識しながらの旅行商品の造成、そういったものを進めているところでございます。

こうした新たなニーズに対する取組を、先ほど申し上げました需要喚起策と合わせて進めまして、少しずつではありますが、先を見据えた新たな展開を進めているところでございます。

以上が県の取組でございまして、最後のCをご覧いただきたいと思っております。

先ほど会長からお話をさせていただきましたように、本日ご意見をお伺いしたいこととしましては大きくこの2点でございます。一つはアフターコロナを見据え、中長期的な視点からの長野県観光のあるべき姿の方向性について。二つ目としましては、ちょうど来年度予算の編成の時期でもございます、当面県が取り組む政策についてでして、ウィズコロナなのかアフターコロナなのか両面があると思っておりますが、両方の場合を合わせてお聞きできればと思っております。本日の意見につきましては次期観光戦略あるいは来年度の予算等に反映をさせていただきたいと思っております。

私からの説明は以上でございます。

○久保田会長

田中課長どうもありがとうございました。

事務局から説明がございましたが、質問につきましては後ほど一括してお受けしたいと思っております。資料Cの説明にございましたが、2点について委員の皆様からご意見を頂きたいと思っております。Zoomでの開催ということもございますので、各委員名簿の順で、5分程度でご意見をいただければと思っております。一通り終わって時間があれば意見交換ということで進めたいと思っております。それでは名簿の一番上の阿部委員からよろしく願います。

○阿部委員

皆さんこんにちは。ご説明いただきましてありがとうございます。長期的なこととおっしゃってございましたが、今日は資料をお預けしてありますのでそちらを見ていただければと思っております。

私は元スイス政府観光局に勤務をしております、現在は一般社団法人日本旅行業協会JATAに勤務しております。JATAでは毎週水曜日に各国のワクチン接種状況についてアップデートしております、国際往来の再開に向けて、長野県にとってもインバウンドというのは重要だと思います。資料を少しスクロールして見ていただけるとお分かりい

ただけるのですが、日本が期待をしておりますインバウンド再開ですが、アジア諸国のワクチン接種率は欧米に比べ非常に低くなっております。現在、アウトバウンドの再開に向けての業務に携わっておりますけれども、ヨーロッパやアメリカ方面の方が接種率は高いので、インターナルでは国際往来のスタートはもしかしたらロングホールからの再開かもという話しもしております。

以前、長野県のインバウンドに関して拝見しましたが、国のバランスに比較的ばらつきがあり偏っている部分があると思えました。こういった危機的な状況の場合、やはり国バランスが必要なのかなと思えました。私が勤務しておりましたスイスでも、中華系の方が比較的多く来ていただいていたのですが、訪問者国のバランスが非常に偏ってしまったことがあり、危機的な場合に備えてバランスを取らないといけないということで、ヨーロッパやアメリカからの訪問者誘致を強めたことがあります。長野県のインバウンドに関しましても国のバランスが求められるということです。

また前回も申しましたけれども語学ですとかインフラの整備が求められるということです。今回のオリンピックでピクトグラムが日本人の間にも浸透しましたけれども、そういったピクトグラムの活用によって語学ができなくても、日本語が話せなくても一目瞭然でそこに何があるか分かるような、そういった整備を検討して実施していくことが必要だと思います。

それから長期滞在型観光。通年型の山岳高原リゾートを目指すということでしたけれども、やはりインフラ整備ということで施設のwi-fiとか、長期滞在でしたら冷蔵庫とかポット、レンタサイクルなど、そういったものを整備していく必要があると思います。以上です。

○久保田会長

どうもありがとうございます。つづきまして海老原委員お願いできますでしょうか。

≪機器不調による中断≫

○久保田会長

通信状況が改善したら後ほどお願いしたいと思います。

金澤委員はこちらに来ておりますので次よろしくお願いたします。

○金澤会長職務代理

よろしくお願いたします。アフターコロナにおける県の取組ということですが、時間が少ないということで紙にまとめました。会長にお渡ししてあるので議事録に載せていただければと思うのですが、ここでは簡単に私の意見を述べさせていただきます。

アフターコロナと言うのはもう止めにして、これからは付き合っていくことを前提に考えなければならないと思います。去年からの観光行政の頑張りについてはよく分かる

のですが、通常の保健行政をやられているのだから、観光に対して強い縛りをする必要はないかと私自身は思っております。なぜか観光だけは神経質です。来る人、サービスする人と一緒に暮らす人、観光にフォーカスするのではなく、その辺は大きな視点で見ていただければと思っております。

また大型催事という単語がありましたが、それについては長野県として安全対策をしていけば基本的には実施する方向でお願いしたいと思っております。当然、必要があれば中止の判断をする人がいると思うのですが、その点につきましては感染状況、経済状況、伝統宗教的な意味とか、色々な点で重みのある大型催事です。ですからバランス良く、失礼な言い方になりますけれども、神経質になりすぎるような判断ではなく総合的、俯瞰的に見て判断をしていただければと思います。

資料Bの後にあるスポット的なカンフル剤と言うか、補填するような施策というのは、去年と今年、非常にありがたく感謝しております。ただし、値引きしなければ来ないというようなお客さんを招いてまでも観光事業者の生活を守るということも大事ですが、それが定着すると安くしなければ来ないという話になってきます。それについては県の皆さんも理解され意識されていると思います。そのことを踏まえながら、副作用がくるようなカンフル剤であるということ念頭に置きつつ、観光がどうなるか分からないので準備だけはしていただきたい。いつでも売り出せるような体制の用意をお願いしたいと思っております。

それから田中課長から観光消費単価について話がありましたが、少しずつ上がっていると話をいただきました。課長も仰っていましたがGo Toトラベルがあって、数字が大きく伸びているだろうと想像しております。前回の会議でも申し上げたように単価が安いということは私たちが常に思っていることなので、まだまだ満足せずに消費単価を上げる。当然、満足度を見つとなりますが消費単価を上げるような施策を打っていただければと思っております。

今後の観光振興方針について資料に書かれておりますが、例えば旅マエ、旅アトといった方針は良いのですが、既存の事業者の助けに繋がっているのかという点ではそうは思わなくて、新しいデジタルの業者さんに資金が流れると思います。既存の事業者を100%守る必要は無いのですけれども、地域の経済をダメにしないためにも、今頑張ってもらっしゃる宿泊事業者を守るような施策を中心に考えて頂きたいと思っております。

ここ何年か、インバウンド、インバウンドということですと来ました。そこには派手な話も多いのですが、もっと地味なところに対して、出来ればAの1に第1章、第2章、第3章とありますけれども、第2章の観光地域としての基盤作りにはしっかりと注力していただきたいと思っております。どこの地域も同じですけれども、二次交通というのは民間事業者だけでできるというものではないので、そこについての配分をしっかりと考えていただきたいと思っております。それ以外にもあるのですが、そういったベーシックなものに注力していただきたいと思っております。

そろそろ時間なので端的に言いますとカンフル剤の準備として予算をしっかりと確保していただきたい、本当に疲弊しているところを助けられる準備をお願いしたい。準備だけだと予算の関係では難しいのかもしれませんが、それをお願いしたいと思います。それとコロナが落ち着けば観光地への助成というものが国から出てくると思います。それを県が率先して特にハードの面で、先ほど申し上げた二次交通とかそういうところに落とし込んで、基礎体力が上がるような整備をしていただきたいと思います。以上です。

○久保田会長

どうもありがとうございました。

続きまして小林委員よろしく申し上げます

○小林委員

よろしく申し上げます。

先ず今後についてですが、この状態はまだ完全には収束しないので、今行っているリゾートテレワークは長野県の強みでもあるので力を入れていくべきだと思います。

家族単位であればリスクが避けられるので、家族の利用を前提とした観光に力を入れていくということが重要になると思います。また今までですと、一人で滞在すると旅館やホテルにはあまり良い客ではなく、迷惑になるのではないか思ってしまう人達も多いと思うのです。一人であれば感染リスクはないので、一人で楽しむ長野県の観光旅行を積極的に企画して、一人で長く滞在する、また家族でも長く滞在するといった提案をしていくのが良いと思っております。

また滞在中にお昼を摂る時には信州の郷土色弁当ですとか、子供が長野県に長期滞在するのであれば長野県の昼食弁当みたいな形で、長野県の野菜や果物の入った郷土色のあるお弁当を、横山先生やそういった方々に監修をしていただいて、訪れた地域の勉強ができるような形にさせていただくと、長期滞在の時にすごく役に立つし楽しめると思います。

長野県に出かけられない方々に向けては、その時期の旬なものを送って収穫した地域の暮らしとか自然、そういったものを Web で見せられるようなリモート観光もあると良いと思います。以上です。

○久保田会長

どうもありがとうございました。続きまして竹内委員よろしくお願いたします。

○竹内委員

よろしく申し上げます。県会議員の竹内正美と申します。私は皆様のように専門家ではないものですから、私の理想にする部分をお伝えできればと思います。私は千曲市、坂城町が地元でありますので、ご紹介できたらと思っております。

先ず中長期的な視点ですが、優しい観光になって欲しいと思っております。これは環境にも優しい、人にも優しい、そんな観光を目指していただければと思っています。若い人ほどSDGsとかゼロカーボンに関心が高く、これから注目も集まってくると思いますので、サステナブルツーリズムを進めていくべきかと思っております。

マイクロツーリズムが増えたことで、二酸化炭素の排出量が少なくなったとか、ラフティングなどで自然を体験するというツアーも非常に人気ですが、中長期的には環境に優しいを飛び越え、環境に良いツーリズム、そういったツアーを考えてもいいのかなと思っております。

また人に優しいという意味ではユニバーサルツーリズム、こういったところをもっと充実させていただければと思っています。以前、私も富士見高原リゾートでJINRIKI（じんりき）の体験をして、非常に良いものだと思いました。また富士見高原リゾートではゴルフ場にあるカートのような乗り物で、ゆっくり景色を見ながら頂上まで行けるのですが、私の主人は足が不自由なので、こういった乗り物は障がい者の方にも良いですし、ご高齢の方にも楽しんでいただけます。長野県の景色や自然を色々な方に楽しんでもらえるような、優しい観光が良いなと思っております。

先ほど食事の話も出ましたけれども、今までは提供される側が提供する側に合わせていて、個別対応をする場合にはお願いしなければ対応していただけないものでした。これからは個々の多様なニーズに合わせて、体や健康に気を使ったお料理を提供してもらえれば嬉しいと思います。

また温泉でも男湯、女湯とそれだけの分け方ではなく、介護しながら家族で入れるような、そんなお風呂が増えてきて嬉しく思っております。そういった意味でも弱者にも優しい旅というものはすべての人にも優しい旅になるのではないかなと思っております。

当面の視点という点では、長野県の魅力的な人に会いに来てもらえるようなそんな旅が増えれば良いと思っております。先ほどお話がありました、私もリゾートテレワークの更なる推進を希望しているところであります。ワーケーションというのは従業員の生産性も上がり、心身の健康も向上するというデータもあります。健康経営ということで事業主の方も従業員の健康を経営の視点で考え戦略的に実践する例もあります。リゾートテレワークもそういった視点で増やして頂いて、疲れた体を温泉と自然で癒しつつ、健康が向上して生産性も上がるリゾートテレワークをどんどん増やして欲しいと思っております。

別冊の資料にリゾートテレワークやワーケーションの写真が載っていたんですけども、私の写真も数枚ありました。私も積極的に参加しております。良さを感じています。

もう一つ当面の部分では、体を動かすアクティビティがもっとあった方がいいなと思っていて、今、長野県はサイクルツーリズムということで諏訪湖周辺やジャパンアルプスサイクリングロードとか、いろいろと取り組んでいただき感謝しております。千曲市から上田市では、社会実験としてシェアサイクルをやっており、非常に好評です。自然

にも優しいですし、有名な方ですがタイラーさんという亀清旅館の青い目の若旦那に逢いたくて来るといふ人もいます。魅力的な方に会いそして体も動かすアクティビティも楽しめる、そんな観光になってくれたら嬉しいと思います。まとまりませんが以上です。

○久保田会長

どうもありがとうございました。続きまして玉田委員よろしく願いいたします。

○玉田委員

玉田です。お疲れ様です。私は普段、新丸ビル7階の丸の内ハウスというレストランフロアのマネジメントと地域活性化のプロデュースをやっております。

小林委員や竹内委員のお話のとおり、私のいる東京でもSDGs的なものですか、里山的なものも非常に重要なテーマで、私の担当しているフロアでもジビエのイベントを11月頃の実施で検討をしております。これは大きなイベントというよりは地域の食や生産者を応援するというイベントとして企画しておりますので、長野の取組とも繋がるのかなと思っております。

長野県が取り組む三つの柱を拝見し、非常に良いと思っております。特に先ほどからもお話になっております長期滞在というものに関しては、今、働き方も随分変わり、どこからでも仕事にテレワークで参加できます。丸の内では3割程度に人流を減らすということで、ひと月7日程度の出勤となりますのでテレワークがリゾートテレワークに繋がっていくと思っております。

長期滞在の中で面白い事例として、富山県でベッドアンドクラフトという宿があります。これは町全体をホテルとして捉えるということで、泊まった宿で毎日食事をするのではなく町全体がレストランですとか、ワークショップですとか、生産者や地域の方達と繋がって、町全体、地域全体がお客様をお迎えするホテルだという取組です。これは長期滞在に求められるバリエーションが出てくると思っております。

また、大事なはその地域に行つて非日常的な体験をすることで、今海外に行けない状況の中で、日本国内の旅行の需要が非常に高まっています。今までのありきたりの旅行ではなく、今まで体験しなかったような旅。海外旅行についても、丸の内OLはなかなか行くことができないような所に行く人が多くなっています。長野県もそういったレア体験ができるような場所を発信していくことによって、SNS等で広がっていくのではないかなと思っております。

今いろいろとお話を伺つていて色々な取組をしておられますが、情報発信が統一されていないので、その情報にたどり着くのが難しいように感じました。出来れば長野フレンドリーなトータルアプリを一つ作っていただきたいなと思います。アプリに登録するとお得な特典が得られたり、アンテナショップで割引が受けられる。アプリによって、例えば安心安全な宿やお店の情報も得られますし、その中に一つのコミュニティを作るような形で長野の応援団を作る。そんな形のアプリを作る計画を立てたらと思っておりま

す。

先ほどシェアサイクルの話もありましたが、ヨーロッパでは電動スクーターを乗り捨てるとまた次の人がやって来て乗って行く。アプリでここに乗り捨てたスクーターがありますというお知らせが来て、その場所まで行って登録して乗って行く。イギリスでもフランスでも、同じようなアプリでそのようなことができます。日本の交通事情や規制では難しいかもしれませんが、少なくともレンタサイクルで長野フレンズのアプリでレンタサイクルをみんなで回していけるような、実証実験でもいいのでやっていただけたらと思います。

旅の中で一番難しいのが交通手段だと思っております、東京ですと簡単にタクシーが捕まるのですが、地方に行くとタクシーが捕まらない。そういう中でレンタサイクルの新しい仕組み、ステーションに行かないと借りられないというようなものではない、新しい取組を作れたら良いと思います。

そういうことも含めてトータルアプリを作って頂いて、その中には先ほど小林委員がおっしゃった学びのプログラムなどの色々なセミナーなども入れておく。そこから申し込むと、ワインセミナーでしたらワインが何本か送られてきてセミナーが受けられるとか、伝統野菜が送られてきて横山先生の料理教室が受けられるとか、リアルとバーチャルを繋げていくという部分を一つのアプリで行うことができると、長野の観光と他の地域との差別化になると思います。アプリに入ることで長野の色々な情報が得られますし、お得な情報も得られるようになると、皆様、ダウンロードしてくれると思います。

消費者は、アプリを使うことがコロナ禍で上手になってきております。そういうアプリを作って、プッシュ型の情報発信もできますので、その方が長野に来た場合には位置情報をオンにしておいて頂ければ、エリアの最新の情報がどんどん入りますよというやり方もできます。是非そういうものを作っていければなと思っております。

旅に関しても先ほど割引に関する施策を色々と拝見しましたが、皆さんは海外にも行けず外食にも行けず、お金がとても貯まっているようです。どうせ行くなら優雅に過ごしたいという需要もあり、三越の外商の方に聞くと一回でたくさんの買い物をする人が非常に多いと伺いますので、ラグジュアリーなツアーというものも非常にニーズがあると思います。

そして先ほどのアプリに関してですが、管理が難しいかもしれませんがオープンチャット的なものを作って旅行者同士、地元の人同士、地元と旅行者といった方々が繋がると面白いと思います。「今こんな店を探していて今ここにいるのですがどこか美味しい所ありますか」と入れると、「それならここ行った方がいいですよ」といった返しがある、そんなオープンチャットが流行っております。ある程度のルールを決めて、管理者を置く。それはすごくリアルな情報が盛り沢山で、地元の飲食店の人からは「うちの今日のお昼の定食はこんなメニューですよ」とか、「ちょうど今日入った山菜があります」とか、そういったオープンチャット的なものが流行っており、コロナの時代でデジタル化がより進みましたので、取り組んでもらえたら良いと思っています。そういったデジ

タルを利用した情報の発信が今後は重要とっております。

あとは長野のブランディングとして、県外の人達で面白い人達にキュレーターになってもらうアイデアもあるとっております。自分たちが自分たちのことをかっこいいよというよりは、他の誰かにあの人素敵と言ってもらえる方が響きます。誰にキュレーターになってもらうという点もありますが、そういう仕組みを入れても良いかと思っております。キュレーターの意見に合わせて長野のブランディングを押し上げて行った方が良いと思います。例えば今まで通りのお土産よりも、現代の家族構成に合わせた少ない量で色々な種類が楽しめるお土産ですとか、地域産業振興のブランディングにも取り組まれた方が良いかと思っております。以上です。

○久保田会長

どうもありがとうございました。続きまして中村委員をお願いします。

○中村委員

皆さんこんにちは。旅館ホテル組合会の中村でございます。皆さんからお話しいただいたことを大変興味深く拝聴させていただきました。

私は現場の立場ですけれども、状況から申し上げますと観光を振興したいという立場と、実は申し訳ないのですが我々はもう限界に来ておりまして、これからの観光についてどう考えるかということに大変息が荒くなっているところもございます。その両極面からお話を少しさせていただきたいと思っております。

一つには、今このまま続きますとほとんどの事業者が12月までもたないと発言をしております。宿泊業というのは特措法にも適用業種としては入っておりませんし、様々なところで大変な思いをしております。もちろん私達だけではないのですが状況からしますと1日6万円も頂ける飲食業と比べますと、はるかに我々の方がかかるコストが大きいわけです。また色々なアイデアあって良いものだとしましても、展開する投資には返済があるわけですし、結果的には前に行けなくなるというのが現状です。正直言って県の政策でAirbnbを使うような話も出ておりますけれども、一部の昔からやってる人達は、俺たちは切り捨てなのかというような雰囲気は漂い始めているのが、私どもの組合を束ねる身として危惧しているところでございます。

反面このコロナ禍は形勢逆転を狙ういいチャンスでもあるとっております。一泊二食の関係につきましては、最初はエージェントさんの方から泊食分離という言葉があったのですが、泊食分離をやらなかったのもエージェントさんの方です。今はコロナ禍でその流れが変わったのですけれども、コロナ禍で新しい生活様式、新しい考え方を皆さんが認めて受け入れて下さるということに大きな変化を感じております。

ゼロカーボンから始まりまして、プラスチックのスプーンを止めようとか、旅館の歯ブラシも止めようという話になっております。以前はサービスを省略しようとしているということで随分お客様からお叱りをいただきました。そういった部分の切り替えとい

うのはこれからやり易くなります。私も週に1度は東京に行きますが、自分でスノーピークのスプーンとフォークを持って行きます。お客様の皆様にもそういった新しいムーブメントに対応していただける環境づくりがこれから大きな役割になるかと思いません。

この会が始まる1時間ほど前まで、周辺の8軒の旅館組合の方々と懇談をしていました。そこで共通して皆さんがおっしゃったのは、今のキーワードは安全、車、ワクチン接種です。総じて安心に紐付いています。今日も個人旅行が良いのではないかというお話がございました。車で来られるということはバブルの中に自分を閉じ込めて、そして現地に来て楽しんでいただくのですから、途中で人混みの中を通るといってもないので安心感が高まります。そしてワクチン接種が大きなポイントです。また10%くらいの方はワクチンを体質的に受けられないとなると、これからは検査というものが大変重要になるかと思えます。お越しになったお客様に対して、あなたは熱があるからお帰り下さいということを私たちは出来ないわけです。検査データに基づけば、お客様に何かあれば隔離するといった対応がとれる。そんな優しく受け入れる環境を目指していきたいと思っております。旅をするにあたって安全であってほしいという気持ちを尊重したいと思えます。受け入れる側のポイントとして、今後はそういったことを中心に取り組んでいきたいと思えます。

マイナスイメージの会話ばかりでいけないのですけれども、先ほど金澤委員の話にもありましたが、日本は世界で一番スキーリフト券の安い国です。しかしながら日本国内の利用者からはリフト代が高いといつもクレームを受けております。こういった安ければ良いという雰囲気は今までの日本にはあって、そのおかげで周辺の諸外国とは全然比べ物にならない格差がつかまりました。貧富の差も広がるでしょう。そういうことを一つ一つ整理しながら、一つの事だけがソリューションという世界ではないことを理解していただきたいです。多種多様な受け入れ方、多種多様な受け入れ方のアピールをしながら、お客様がお越ししやすくする。観光というのは英語ではサイトシーイングからツーリズムという言葉に変わると思えます。自分の普段と違う環境で仕事さえもできてしまう、これからのちょうどいい場所の在り方かと思えます。

長くなりましたが、ここで失礼いたします。ありがとうございます。

○久保田会長

どうもありがとうございました。続きまして村山委員お願いいたします。

○村山委員

よろしくをお願いいたします。私からは長期滞在型の観光の推進ということで、お題にありました二点について事例とともにお話をさせていただきたいと思っております。

一つはライフスタイルを見つめ直す機会を提供するという、もう一つは学びを中心に自身の価値を高めるということ。この二つのツーリズムについてとなります。

大前提として皆様からのご意見もございましたが、長期滞在のポイントとして退職された方はいいのですが、現役世代にとってワーケーションは大変難しいということがございます。長野県は大変成功している地域だと思うのですが、ワーケーションの企業認知度は80%位ありますが、導入しているのは全体の12%位です。やはり労務管理が非常に難しいということかと思えます。IT企業や、副業を可としている企業さんと積極的に組まれて長野県でのテレワーク環境を整えていくことが大事ではないかと思えます。

長野県は若い世代の移住希望や定年後に住みたいと希望する方が大変多いので、本日は佐久市の柳田市長もお見えになっておられますが、そういう点からも将来の定住希望者向けにコワーキングの環境整備をやっていくなど、佐久市さんのようなお取組みが大事だろうなと思っております。合わせて、地元の方と交流していく、起業支援をする、そういった世話係の方や機能が重要で、この辺りの取組成功事例を水平展開できるのではないかと考えております。

ライフスタイルを見つめ直す機会の提供という点の事例としましては、八ヶ岳の麓に2020年に出来ましたヤマウラスティ。これを一つの題材として挙げさせていただきたいと思っております。

こちらは皆さんもご存知の通りアレックス・カーさんが古民家再生をしたプロジェクトの一つです。アレックス・カーさんの古民家というと、本当に田舎にあつてなかなか行けないところが多いのですが、この素晴らしい4棟の古民家が茅野にできたということで首都圏からすぐに行けますので、ここは成功につながる古民家になるのではないかと考えております。基本的には一泊二日の慌ただし旅ではなく、少し長めの、暮らすように過ごす里山ということコンセプトにしており、そのために周辺整備を行ったら良いかと思っております。サイトを見ますと、将来的には定住をしてみよう、オーナーになってもらいたいという目的があるようです。こちらについてはミドル世代から第二の人生に向けてのライフスタイル提案がポイントになってくるだろうと思っております。私もコロナの関係で、なかなか県境を越えて移動ができないのでまだ行ったことがないのですが、落ち着いたらこちらを訪ねたいと思っております。

サイトや口コミを見ていると4棟それぞれの特徴と連携が少し弱いかなということを感じます。また、案内人の方が駅からお迎えに来てくださると思うのですが、もう少し踏み込んだコンシェルジュ機能が現地にあつたら良いかと思っております。

もう一つ、里山に暮らすように日常を感じさせるということがサイトを見ると、PRポイントとしてありますが、里山の生活含めた具体性があまり感じられないのでコンテンツの整理とまだ未整備であればそれを整えると良いのかと思っております。

実際に暮らすように滞在するというテーマにした長期滞在型の観光では、アレックス・カーさんが手掛けられた古民家をベースに五島列島の小値賀というところで取り組んでいるようです。これはかなり成功していて、完全に島の暮らし、島民と同じような事を皆さんにやってみようという仕組が上手くできています。若い方が中心かもし

れませんが民泊施設もたくさんあります。海もあるし山もあるし年中色々な行事もあって、その日常の島の生活に、旅行者にも入ってもらうという仕掛けが良くできております。

茅野の古民家に関しましては、もう少し地域のコンテンツと地域の人たちとの交流を上手くできるプログラムを作っておけるのがポイントだと思います。ヤマウラスティは、素泊まりで3万円位します。食事も車やタクシーで行かないと近くに料理店がないとか、出張料理は頼めるのですが、かなり高額なようです。そうするとある程度お金に余裕のある方がターゲットになります。そのような方々が、満足するようなプログラムを提供することがポイントになるかと思えます。ではレストランを作ればいいのか、というとそれも現実的ではない。4棟の内、1棟がものすごく大きくて6人以上が宿泊できるので、たとえば、この古民家の1階の部分を皆さんが集まって交流できるような機能にしてしまう。ここにレストラン機能をもたせるとか、旬の野菜などをつかった郷土料理を作る料理教室があったり、テレワークもできるcaféにしたり、滞在や周辺観光のためのコンシェルジュが居たりと、そういう機能を充実させるのが大事じゃないかなと思っております。そして県の取組案にもあったのですが、連泊料金を別途安く設定するとか、リピート割引をするとか、二次交通を合わせて整備して、宿泊地を拠点にあちこちお出かけができるような環境整備も大事じゃないかなと思えます。

さて、二つ目のワインツーリズムでございますけれども、ご案内のとおり、長野県は山梨県に次ぐワインの生産量でワイナリーの数も多く、かつかなり高級なワインがたくさんあります。ここをどう伸ばしていくかという時にワインリゾートをテーマにした長期滞在ということになりますと、ワイン観光の拠点になるところが無いと難しいかなと思えます。山梨県の場合はそういう拠点ができております。皆さんも何度か行ってらっしゃるかと思うのですが、宿泊施設があり、レストランがあり、200種類位のワインが飲める施設があり、かつ日帰り温泉もある、日帰りでも宿泊でもワインを楽しむ体験がワンストップで出来ること。もう一つ、お酒を飲むと運転できませんので、二次交通が整備されているというところが大きいと思えます。温暖化の影響もあり、今後長野県は環境的に優位になってきます。ワインの集積地を中心に他にもブドウとかリンゴとか美味しい農産品もありますので、グリーンツーリズムと一緒にワインツーリズムを成功させていくことができなかなと考えてございます。そういう意味では千曲川ワインバレー。ここは欧州系のブドウ品種を栽培し生産するワイナリーも多く、大変良いワインが揃っております。私は仕事でJR東日本のトランスイート四季島の観光開発をやっております。来年の6月から9月は千曲川ワインバレーについてご案内することになりました。大変上質なワインを富裕層に向けてご案内ができるところで、千曲川ワインバレーはワインリゾート展開ができる素地が十分にあると思っております。ヴィラデストワイナリーの経営者であり作家である玉村豊男先生も仰っておりますが、観光で訪れたお客様が立ち寄る拠点になる場所、宿泊施設、エリアのワインを試飲し、買うことができるワインショップ、それから上質なワインレストランなどが重要になってき

ます。こちらを整理し、二次交通で上手く繋いだりできると、もっと発展すると思います。

それと長期滞在に向けてというところでは、ワインを勉強したいという方も沢山いらっしゃると思います。若い方を中心に滞在しながら勉強する。勉強しながら作業をして学ぶことができる、定期的に訪れる場所が必要で、この部分が滞在から移住に向けて次の段階かなと思っています。ワイナリーツアーなどのイベントはコロナで止まっていると思うのですが、このエリアは舌の肥えたワイン好きがたくさん来られると思います。四季島に乗車されたお客様のような富裕層へのアプローチも重要かなと思います。

もう一つ、ワーケーションとインバウンドの拠点ということで、これは白馬でリゾートテレワークという言い方でホテルの一部をコワーキングの施設にされています。以前、白馬の駅を図書館にできないかというご相談が弊社にありましたが、こちらは頓挫しておりますが、リゾートテレワークにはいろいろな種類があり、駅でやる駅テレ、街中でちょっとやるちょいテレなど多様化しています。テレワークの拠点を駅に置き、コワーキングの設備などを備えると、旅行やインバウンドで来られた外国人も含めて、駅でちょいテレしていると、そこに村の方も来て交流ができる。そういうことが可能になるのではないかなと思っています。

弊社の事例で恐縮ですが、北海道の札幌駅からすぐのところのコワーキングスペースを整備しました。多くの方が視察にいらしていますが、ただ単に仕事をやる、集まるだけでなく、レストラン機能も持ってコミュニケーションができるという点などが受けております。会議もできるしおしゃべりもできるし、新しいものも作れるしという場所で、今後いろいろな地域にこんな駅テレ、ちょいテレの施設ができたらいいなあと思っています。

今年度から、JR 東日本のリゾート列車の改造デザインや設計を一緒にしてきた設計チームとソーシャルビジネス・地域創生本部という部署に移りました。この札幌のコワーキング施設を設計したチームです。今後は、より長野県様の地域の特徴や事情に合わせた拠点についてもご提案できると思っています。

少し時間をオーバーしてしまいましたが、ご清聴いただきありがとうございました。

○久保田会長

どうもありがとうございました。続きまして柳田委員よりお願いいたします。

○柳田委員

佐久市長の柳田でございます。今回、市長会からこちらの会議に参加させていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

ただいまお話を伺わせていただいております。JR 東日本企画の村山委員さんからもお話がありましたが、私どもとしましても移住という形に着目してアドバイスを頂い

ております。そうした中で2020年の人口の流入超過は軽井沢が500、松本が210、佐久が180ということで、東信州としてすごく大きなものがあると思います。

リゾートテレワークというものの可能性についても、概ね同じような傾向にあり、私達自身そういう役割を果たさなければならないと思っています。その中で私どもが観光をやっていこうとするとき、HYGGEという言葉を用いて共通価値を持って行おうと思っています。デンマークの概念でありますけれども、自然の中に身を置くことであったり、時間の流れを感じることで、身近な人々との時間を大切にする、ミニマムな暮らしをする、手作り・クラフトというものなど、経済的な豊かさから心の豊かさと言われて久しいですけれども、そういったものを私たち自身が提供できれば嬉しいなあと思っています。コロナ禍と相まって、そういった動きが出てきたということでもあります。

メディアにも出ているかもしれませんが、酒蔵ホテルという造り酒屋の一角をホテル化し、そこで作ったお酒を召し上がっていただくだけでなく、お酒造りにも関わりを持っていただく。お酒を飲むこともしますけれど、お酒を醸すということの体験をしていただく。また山村テラス、これは南佐久に3つ、そして佐久市に木馬のワルツがこの夏にスタートしましたけれども、ムーミンという物語がありますが、ムーミンという物語にスナフキンがいてここまでは皆さんご存知かと思いますが、スナフキンのお父さんでヨクサルという方がいて、ヨクサルは流浪の旅人ですけれども、この方がもし定住していたらこんな宿になるでしょうというものを商品化しています。こういったものの第4弾を佐久で行なっています。インバウンドが占める割合が大きかったのですけれどもコロナ禍になっても、売れ行きは同じような状況だった。つまり海外の皆さんが求めているものは国内においても求められている、そういう現象が見て取れたのではないかと思います。

また、この11月にオープンしますけれども、渋沢栄一さんとも関わりがあり、青天を衝けという漢詩は佐久市内山峠を越えた時に渋沢さんが詠んだ漢詩になりますが、それに因んでということもあるのですが、機織りと藍染の宿として、古民家を改築したところにお泊りいただき、機織り藍染めというものを地域の皆さんにご指導いただき楽しんでいただけます。先ほどヤマウラスティの話がありましたが、今までの宿泊滞在型のものでは括りきれないような宿泊スタイルがあります。そういったものを長野県で作っていただけないかなと思っています。貸別荘と言う括りだけではないカテゴリーができるものがあるのではないかなと思っています。

またマイクロツーリズムということがよく言われます。この資料にもありますが、マイクロツーリズムというものが一番成功する可能性があるのは長野県じゃないかなと思います。私どもは東信地域でございますが、南信地域の方に足を運ぶというのは本当に稀なことです。おそらく南信の方もそうだと思います。南信の方が松本市や長野市に行くことはあったとしても、その周辺部に足を運ぶというのは本当に少ない機会だと思います。マイクロツーリズムというものを意識した運動というものをこの冬から春にかけて行なっていただきたいかなと思っています。お楽しみ頂きながら、地域の中で地域

の経済を回していくことが可能ではないかなと考えております。

少し具体的な話をさせていただきたいと思いますが、安心の長野県を作っていくという中で、ワクチンパスポートという話があります。発行は各自治体でできますがワクチンパスポートを使わなくても接種済証というものが皆さんの手元にあります。そういったものを提供していただければ基本的には OK です。パスポートというものを用意しなくても接種済証で結構です。余計な手をかけないで入手できる形の証明だと思っております。これから3回目の接種が冬以降に行われます。そうすると3回目ということで書き換えをしなければならなくなる。そうすると接種済証を進めることは実効性があると思っております。

もう一つ、中村委員さんからもお話がありましたが、抗原検査キットが長野県からお配り頂けると思うのですが、厚労省が認定しているものを市町村は購入できないのです。薬事法で市町村が購入できないということは、市町村が主体となって旅館やホテルにお配りするとか、観光地にお配りするとか泊まろうとしている人に送ることができないということです。しかしながら今回も県で整えてくださいました。厚労省と掛け合って法的な整備もしていただいたので、県ならば購入して配ることができる。県内でそのようなことを市町村で行なっている場合もありますが、それは厚労省が認定していない認定外のキットを使っています。受け取る側としては、公認のものとそうではないものでは受け取り方が違うので、ここは長野県の出番ではないかなと思っております。また中村委員さんがおっしゃっていた、宿泊地において隔離という言葉が良いか分かりませんが、別の場所においていただく優しい対応と言っていたことは、とても実効性あると思っております。しかしながら陽性者が出た場合は医師会との調整が必要になって参ります。抗原検査キットというものを調整なしにお配りになられた場合、自治体と経済界と医療界でトラブルが起きる可能性があるのです。それについて県と県の医師会との調整を図ることが必要じゃないかなと思っております。

ワクチンパスポートではなく接種済証で対応していくこと、抗原検査キットについては県だと薬事法の壁を突破できるので対応していただきたいこと、県と県の医師会との合意形成もお願いしたいと思っております。以上でございます。

○久保田会長

柳田市長どうもありがとうございました。続きまして山田委員お願いいたします。

○山田委員

お疲れ様です。日本交通公社の山田です。時間も限られているので、手短にお話しします。

皆さんがお話になったキーワードについてはその通りだと思います。抽象的に一言でまとめますと、市場の再構成ということだと思います。この10年間位は、日本の国内市場というのは団塊の世代の人たちが支えてきたわけです。ただ今回のコロナで一番影

響を受けたのもその世代の人たちです。実はコロナの前の 2019 年のデータでも旅行のメインのターゲットというのはミレニアム世代の人たち、今の 40 歳以下の人たちに数字的にもシフトをしています。それに気付いて対応している地域や施設というのは限定的で、まだ日本国内では中高年世代がメインターゲットだと思っています。

現在、出てきている DX とかダイバーシティ、シェアエコノミーの話とかワーケーションといった話は、それぞれ独立した事象ではなく、市場の主体が変わったことで、出てきた個々の断片だと捉えられます。中高年団塊の世代の人たちからミレニアム、いわゆるデジタルネイティブの人たちの世代に変わってきたことで、発生してきたということです。私は今 52 歳ですが、下の世代の人達の発想や行動は、明らかに違っています。なぜなら、生まれた時から世界と繋がって、ネットによって世界の色々なことを知っている、色々な所とネットワークを持ちコミュニケーションができるからです。それを当たり前として生活しているので環境問題のようなものに対しても、我々にとっては、複雑な問題ですが、彼らにとってはシンプルな問題です。DX も当然です。上の世代の人たちにとっては、新しく対応しないと行けない問題ですが、黒電話なんか見たこともないような世代の人達からすれば、DX なんて、空気みたいな存在であり、問題にすらなりません。その彼らの価値観に合わせ、社会を大きくシフトさせないと彼らの需要を取り込めなくなる。特に、旅行という行動は、経験を蓄積することで、定常化し、ライフスタイルに組み込まれていくものですから、今の旅行先が、10 年後 20 年後の旅行先にも影響していきます。10 年後、20 年後の市場確保という点でも、今、彼らの支持を得ることは大変、重要です。

今回のコロナによって 1 年 2 年、インバウンドについては 3 年から 5 年位の断絶が起きますけれども、これは、市場変化を加速させるとしています。ポスト・コロナの世界というのはコロナの前の市場に戻るのではなく、ミレニアム世代以下の人たちへ大きくシフトしたものになるということです。ですので、コロナの後の世界への対応というのは、端的に言うと世代交代、ミレニアム、デジタルネイティブの人たちの発想で物事を考えることだと捉えるべきです。

その上で来年度に向けてどうするかということですが、おそらくインバウンドは戻ってこない。一部は戻ってくるかもしれないけれども、市場は小さくて、市場が回復したという状況とはなりません。そのため、国内市場を、なんとか頑張るという状況になりますが、申し上げたように、世代交代に向けて何をするのかということの準備をしていく、実験的に使っていくことに使うことが重要でしょう。おそらく Go To トラベルも再開されますが、Go To を使ってお客様を呼び込めれば良いとするのではなく、2 年後 3 年後の世代交代に向けての実験期間と位置づけ、そこに向かってやっていくという発想が必要ではないかと思っています。

今までの委員さんからもコメントがあったのですが、例えば長期滞在、民泊とかワーケーションは新しい市場です。ミレニアムの人たちからすればテレワークも当たり前ですから、旅行先での滞在方法は多様化するでしょう。ただ既存の旅館とかペンションな

どは、長期滞在ができないのです。長期滞在となりますと、Airbnbとか民泊、そういった傾向があります。先ほどの古民家みたいなところに需要が集まります。これは、既存事業者さんたちにとっては脅威ともなりますから、彼らが新しい市場に向けて対応していくための、構造変換の支援をしていくことが必要になります。例えば長期滞在できるようキッチンの整備をするとか、部屋をニコイチで大きくするとか、そういったことを支援する。場合によっては高齢になられた宿泊事業者さんには引退いただいて、世代交代をしていただく。そういった業界側の産業の構造変換を促していくことが必要じゃないかと思います。単なる融資とか補助で延命をするのではなく、新しいものに生まれ変わるような支援をしていくことが必要だと思います。

実際に観光事業者の経営破綻が出てくるとしたら来年以降です。コロナ禍が吹き荒れている間は、金融機関は政府の方針としても融資をかけます。なので、当面は潰れない。問題はコロナが収まり、金融が引き締めへと転換されるタイミング。その金融引き締めが入る前に体質を変えていくことが必要です。

さらに短期の、これから半年後とか1年間という部分でのキーワードは、柳田市長もおっしゃったようにワクチンパスポートの運用となります。特に長野県は首都圏や中京圏といった人口の大きい地域に近いですから、この人たちをワクチンパスポートでどのように引っ張ってくるかということが非常に大きな課題になります。そのためには、長野県また市町村、その中の産業界や医療業界と、どのようにこのワクチンパスポートを運用するのかということについて、この秋のうちに絞らないといけない。おそらく冬になるとコロナの第6波が来ます。その時に今までと同じようにブロックして止めるのか、ワクチンパスポートがあるのだから、ワクチンパスポートがある中で動かすのかという判断を冬には求められます。それまでに、地域の、ローカルの中で自分たちはどういう対応するのかという合意を作っておかないと、この夏と同じことが冬にも起こることになります。

この議論の中で、私が欠けていると思うのは観光客に対するワクチンパスポートの話だけをしていることです。コロナの間に問題になっていたのは、地元の人達と観光客との間の軋轢です。地元の人たちからすると東京からコロナを持ち込まれているという感覚になるわけです。外から入ってこないことにはコロナは広がりませんが、そのキャリアが観光客なのか、そこはよく分かっていないところです。実際の因果関係は分かっていないけど、観光客は危ないという考えになりやすい。そういうことを考えた時に、このワクチンパスポートで地域の観光を再起動するのであれば、地域経済もワクチンパスポートを前提として、地域の人たちもワクチンパスポートがあるから自分達も動けるのだと、自分たちも当事者になることが重要ではないでしょうか。例えば修学旅行の場合、東京の子供達が長野県に来る時にはワクチンパスポートを要求し、同時に、長野県から修学旅行で県外に出かける時も当たり前のようにワクチンパスポートを持っていく。ワクチンパスポートがあるから自分達は修学旅行に行けるというように、自分達もその仕組みを使うことで、社会的な合意を取っていくということです。観光客だけにワクチン

パスポートを求めるということでは、結局は地域の人達の理解、コンセンサスは得られないでしょう。

もっと根本的な話をすると、今コロナの中でもお客さんを集めている施設というのはたくさんあります。そういうところはどうやって集めているのかと言うと、コロナが出て無いから、お客さんもここだったら安全だよねということ行くのです。一方でコロナがドツと出てしまうと、当たり前ですけどお客さんも避けます。きちんとサステナビリティを持って観光を行うということは、実はコロナを持ち込ませないことではなく、地域でコロナを出さないということです。観光客だけにコロナとかワクチンと言うのではなく、住民も含めてそれを展開していくということがこの短期の半年から一年の取組として重要です。早口になってしまいましたが、私からは以上です。

○久保田会長

どうもありがとうございました。続きまして会場からです。横山委員お願いします。

○横山委員

横山です。よろしくお願いします。

県で食のアカデミーというプロジェクトを数年前からずっと続けておりますがコロナで2年ほど休んでおります。そんな取組を一生懸命やっている中ですが、私が見る中では、本当に長野県の食のレベルが上がってこない。そして他県の方に喜ばれない食が非常に多いのではないかと、未だに危惧しております。丸の内の玉田さんの所に行ったほうがよほど信州らしい、ほくほくしたものがいただけ、何でもこういうものが信州で出せないのだろうかと思ってしまうわけです。

私も長野県の郷土料理を深掘りして各地域を回っておりますけれども、皆の知らない非常に美味しいものがいっぱいあります。この間も野沢温泉に行ってみりました。野沢温泉と言うと野沢菜ですけれども、野沢のおろぬき菜というものを源泉の麻釜で茹でて、それを野沢の方は鯛のお刺身より美味しいものだとおっしゃって食べているわけです。それを頂いた時にこういうものを私は県外の方に食べていただきたいと思えます。こういうものが長野県の各地方に山ほどあるわけです。なぜこういうものを旅館とかペンションとか民宿で拾い上げて、お出しできないのか。そういうものを提供する所がないのか、私は非常に悲しく思っております。都会の方が信州に来てアワビを食べたりマグロを食べたりしてびっくりする方がいっぱいいるわけです。

おろぬき菜のようなものを食べられるということが発信される。先ほど玉田委員がおっしゃいましたアプリの中で、こんな宿でこんな美味しい野沢菜のおろぬき菜が食べられるんだよとか、ここではいもなますが食べられるんですよとか、そして佐久ではこんなに美味しい鯉のお料理が、鯉と言っても甘露煮だけではなく種々様々な鯉のお料理が食べられるんです、清流で育ったので都会の方が召し上がっても臭みのない本当に美味しい鯉ですよというような、体験しているところを撮影してアプリで繋げていただく。

そしてこの宿では食べられますという繋ぎ方を持っていただくと、じゃあ今度行ってみようかなという発想になるのです。今コロナ禍の中ではそれしかかなんじやないかなと思います。

普通の宿の食事ではなく、深掘した、本当に皆が今まで体験したことのない普段の食の中の食というものを、こんなにあるんだということを発信していただければと思います。

先ほど小林委員さんがおっしゃった郷土料理の食弁当は良いですね。私も松本駅の大糸線弁当というものを開発して、長い間発信しております。私もたまに松本に行って買って帰ります。チェックを兼ねてですけれども、自分として食べたくになります。東京の方にもそこに私のお弁当があることを伝えて、できたら電話して取っておいてもらって食べてねと言っております。けれども地域の産物を使った、郷土料理を盛り込んだようなお弁当が長野にはなく、中野にはあって。松本や諏訪、伊那であったり、そういうものが所々にあると、楽しみとしてコロナが終わったら楽しんでいただけるのではないかと思います。

先日、長引くステイホームに飽きてしまい、家族で駅前のホテルに泊まりました。夫はそんな近く嫌だよと言っておりましたけれども、是非と言って連れ出し、5時半には外で食事をしまして8時には歩いてホテルに戻り過ぎましたところ、本当にここは長野かいと言うくらいの気分転換ができたのです。そして孫はそこで朝食を取ってそのまま学校に行きました。本当に家に泊まるような気持ちで長野市内のホテルを利用したらものすごく気分転換になりました。割引もあるし買い物券もある。こんなに買い物券を貰ってどうやって使おうかというくらいお得感がありました。他県の方が長野県に来られない期間は、長野県の方がそういう特典を使って、長野県の宿泊、食事処をみんなで守り合って行けたらと思います。コロナが収まるまで支え合いましょう。先ほど、もう限界ですとおっしゃる方もいらっしゃいましたが、そんなことのないように長野県みんなで守り合いましょうという取組を、心を一つにいただければ嬉しいです。以上です。

○久保田会長

どうもありがとうございました。

先ほど海老原委員の時に通信状況が悪く、途切れ途切れになってしまい、おっしゃっていることの趣旨が理解できない状況でした。先ほど事務局でご意見をお伺いしましたので、こちらを報告させて頂いて、ご参加いただいたということにさせていただきたいと思いますよろしいでしょうか。

○海老原委員

お願いします。

○田中山岳高原観光課長

海老原委員、大変申し訳ございませんでした。

先ほど職員が海老原委員から聞き取った内容を、ポイントになりますが私からお伝えしたいと思います。

まず情報発信についてでございます。情報発信で SNS や Web が活用されているところですが、今後もそういった手法はますます強くなっていくだろうというお話がございました。現状として、SNS での情報発信はほんの一部にすぎず、特に行政でも発信しているようだけれども十分に届いていないのではないかと懸念を持たれております。もっと積極的に、例えば SEO 対策といった検索エンジンによる検索結果をより上位に表示させる工夫をしながら、ユーザーをより獲得する工夫がこれからますます重要になるだろうという話でございます。

アフターコロナに関して報道の形態についてのお話がありました。おそらく今後ですが、旅の意識としては密を避ける、安全安心というのが第一になることは続くであろうと。そういう意味では時間をずらしたり、場所をずらすといった、ズラシ旅のニーズが継続するのではないかと予想をされておられます。

併せて長野県の強みである自然。これは豊かな自然でありオープンエアな空間です。より多くのお客様が来られるわけですから、自然だけを紹介するのではなく、自然の遊び方、長野県民が昔から受け継いできた遊び方があるはずなので、色々なパターンを体験という切り口で発信し、それが具体的に伝わるほど良い。それを行政がぶれることなく今こそ発信し続けること、仕込んでいくことが非常に大事ではないかとおっしゃってありました。

最後に来年度のイベントについてコメントを頂いております。例えば善光寺御開帳ですと、回向柱に触れるということが私たち住民はご利益ということが分かっていたり、一度訪れたことのある人もそのことの意義をご理解頂いております。しかし触れるということに対して、他の方はともすると避けたいということで、善光寺に来たくなくなってしまう情報になることを危惧されておりました。回向柱に触れるということはどういう趣旨なのかということや行政が正確に伝えるべきで、そして主催者の方が触れるということに対して感染対策を取るのであれば、今回は早めにこういった対策を取りますよということをアナウンスすることが、これから訪れようという観光客の皆様の不安を解消していくのではないかとあります。ですので、そこを行政としてしっかりサポートして頂きたいというお話がございました。

ずれている部分もあるかもしれませんが、掻い摘んでご説明させていただきました。以上でございます。

○久保田会長

どうもありがとうございました。通信不具合があり少し時間がオーバーしておりますけれども、最後に私の方からいくつか申し上げたいことがあります。ポイントだけ申し

上げます。

また時間の関係上、退出しなければならない方はご退出いただいて結構でございますのでよろしくお願いいたします。

今回の資料のBにある大きな枠組みの大方針、いわゆる安全安心な観光地域づくり、長期滞在、そしてリピーターと、この大きな方向性については非常に良い方向だと思えますので、賛同した上での話であります。

ワクチンの接種が進んできている中で何人かの委員さんからもありましたように、そこが安全安心な経済活動をしていく方向付けをする上でもポイントになるだろうと思います。画面の資料はまとめただけですけれども、9月9日の政府の対策本部で言っている三つの点です。先ほど柳田市長からもありましたけれども、私も全く同感でパスポートとか証明書ということになりますと国内で使う場合は大変煩雑になります。居酒屋に入るにも証明書が必要だとそういったことにもなりかねないので接種ズミのシールのコピー等があれば十分だろうと思っております。私も携帯の中に接種証明の写真を、名前も分かるように2枚セットにして写真を撮って、どこでも使えるようにしております。まだ使ったことはありませんが。それと山田委員からの発言にもありましたけれども、地域がどのように使っていくのかという各分野の合意形成です。それが大変重要になろうかと思えます。

次のページです。対策本部決定で示され総理が会見した時にはGo Toトラベルにも言及しており、また私も取材を受けました。こういった動きはもちろんですけれども中村委員、金澤委員さんからもお話がありましたが大変冷え込んでいてまさに限界だといった状況もあります。制限されているということもありますが、皆さん旅行や観光をする状況やマインドに全く至らないと、冷え切っていると。やはりそこを再起動できるようなメッセージ、おそらく県民割の拡大とかGo Toトラベル再開に行き着くような道筋が必要です。前回のGo Toトラベルの仕組みが全て良いわけではないと思っております。工夫が必要だろうと思えます。そういった制度が動き出すということで、観光に基づく経済活動のスタートに立てるのです。そういうメッセージが重要だと考えております。次お願いします。

皆さんご存知のようにワクチン接種率と感染リスクの相関表でございます。左側はアメリカの事例です。やはりワクチン接種率が高いほど感染リスクは低い。そして右側が沖縄の事例ですけれども、市町村ごとに見るもので、横軸がワクチン接種率で右に行くほど高くなります。縦軸が人口当たりの新規感染者数で上に行ほど高くなります。右肩下がりになっているという明らかな傾向が見て取れると思えます。ワクチン接種率が上がれば上がるほど感染率は下がっていく。例外的に2回接種しても感染する人がいるという報道もありますが、リスクの率としてはどんどんと下がっていくということが見て取れます。これは少し古い資料で8月11日時点と書いてございますけれども、直近の資料を見てもこれがまさに右下にシフトしているだけです。9月半ばのデータもありまして右下にずれているだけなのです。これを県としてどのように情報を提供していくの

か。これは県民にもプラスになる話です。県外の人、観光だけではなくビジネスの人にも含め、接種しているとリスクは下がっていることを市町村別に示していく事が一つの方法かと感じています。

次のページです。左側が都道府県毎の人口 10 万人あたりの感染者数で、これは 9 月半ばのデータです。長野県は大変優秀と言いましょか、非常に低く首都圏は高い。これは人口が多いため交流が盛んだということもあるのでしょう。新幹線や高速道路で直結しているにも関わらず長野県は相当低いということは、やはり地域での対策が効果的だったのだらうと思います。

先ほど山田委員からお話がありましたけれども、感染の全部が流入によるというわけではなく、コロナは入ってきて、住民同士の交流や接触の中で広まっていくとそういう側面の方が大きいです。どうしても日本人は、今回のオリンピックの話ではありませんけれども、外から来るのは敵だという感覚があって、県単位で見てもそういうことになりかねないわけです。長野県の事例はまさに交流が太くてもそれなりに抑えている。それは地域での対策がそれなりの効果をもたらしているのではないかと私は感じるところでございます。

右側です。人流に関して、住民との接触がどういう場合で大きいのか。接触時間が長ければ長いほど感染リスクは高まるわけですから、その時間がどうなのかと見たとき観光に類するような移動で分類しています。帰省、出張、観光それから長野の場合は避暑やスキーという場合もあるかもしれません。それぞれの特徴について、住民と接触する割合というものを現場に近い感染症の専門家にも入っていただいて、他にも観光の専門家にも入っていただいて分析し、どこが弱点かということ調べておくことが大事かと思えます。

次の次のページです。これは沖縄の事例ですけれども、職業別にどのような発生状況かという絶対数です。飲食店はこういう結果になるのでしょうか。次は建設業の従事者で、やはり詰所が一緒だったり、現場ではお昼休みにマスクを外してタバコを吸いながら談笑しているなんていうのをよく見かけますが、まさにこの辺が危ないということが如実に表れています。他はご覧のような順番ですが、沖縄は長野と同じ観光県ですけれども、沖縄の観光従事者の中で調べるとホテル、マリンレジャー、レンタカー、その他となっております。沖縄の特徴はマリンレジャーです。素潜りやシュノーケリングをする時にはマスクをしているわけにはいかない。そしてインストラクターがいて何人かのグループで教わりながら潜ります。まさに観光で一番弱点なのが沖縄の場合はマリンレジャーだと調べて分かってきているわけです。こういった現場の分析をしっかりとって、どういう対策をとるのか、そしてそれをオープンにしていく、そういうことが感染症に強い受け入れ地を作ることに繋がると思えます。この辺は医療との連携体制が非常に重要です。先ほど柳田市長からも検査キットを配る時の例がありましたけれども、医療としっかり連携が取れる体制を整えておくこと。沖縄では沖縄県疫学統計解析委員会というものを県の組織の外に作っていて、分析を行ったり調整を行ったりするルールがあるそう

です。

ページを戻っていただいて、その時の視点として、旅行者、観光事業者、地域住民、地域の医療関係者が安全を感じられるような感染予防マネジメントが重要だとそういうことであります。

次の次のページです。安全・安心に対して感じることを少し述べましたけれども、最後に今日のテーマでございます。中期的にみると重要な点はと思い、四つほど挙げました。やはり観光産業の強靱化です。跡継ぎがないので廃業することは十分あり得ることですけれども、資本再編等を行っていくこと。そのために金融機関や国の支援を活用していくということは大きなテーマであろうと思います。これは数年先の備えになると思います。

それから観光インフラをしっかりと整備することも重要だろうと思います。特に景観に関しては時間がかかります。私がJR長野支社で支社長をやっていた時、残念と言うかびっくりしたことです。現場巡視で大糸線を回って白馬の駅に行きまして、今日みたいに天気が良くて白馬三山が綺麗に見えて日本一眺めのいい駅だなと思っていたのです。けれど目の前にたくさんの電線がとあって、これだけはいただけないなと思いました。資料を見ましたら HAKUBA VALLEY 支援の中で、電線地中化についても取り組んでいただけたということで、私は非常に感激しました。そういった地道ですけれどもインフラ整備、景観を大事にすること。そして国際会議の誘致も書きましたけれど、会議だけではなく文化、スポーツ、芸術に関する国際的なイベントについて、これも HAKUBA VALLEY 支援の中に書いてありました。そういった意味で世界への発信の輪が広がることになるだろうと感じました。安心な観光地づくりはここに書いてあるようなことです。

そしてワーケーションを活用すること。ワーケーションが目的ではなく、分散化や、最終的には移住ということで、県に来ていただき住んでいただくことを目的としたワーケーションの推進が重要であろうと思います。ワーケーションに関しまして何人かの委員もおっしゃっておいりましたけれども、企業との連携というのも重要であろうと思います。

駆け足になりましたけれどもポイントをまとめさせていただきました

最後に私が時間を伸ばしてしまいました。意見交換をしたいところですが時間も時間がオーバーしてしまい申し訳ありません。以上で終了させていただきたいと思いますが、言いたいことなどございましたらお手数ですがメールなどで事務局の方にお寄せ頂いても宜しいかと思っております。どうかよろしく申し上げます。

それでは事務局の方に進行をお返しします

○若林企画幹

久保田会長、委員の皆様ありがとうございました。

審議会の終了にあたりまして渡辺観光部長から一言御礼を申し上げます。

○渡辺観光部長

本日は通信環境の面で大変ご迷惑をおかけし、大変失礼を致しました。お詫びを申し上げます。

そういう中にありましても、短期中、長期的な面で本当に貴重なご意見を頂戴しました。ありがとうございました。いただいたご意見は私共だけではなく、関連部署、県庁内全体で共有してしっかりと検討して参りたいと思っております。またお話にございましたけれども、しっかりと今までのコロナ対策の知見を活かして観光の再生、それから復興に力を入れていきたいと思っております。

引き続き委員各位にはご意見、お力添えを頂戴することをお願い申し上げまして、大変簡単ではありますが御礼の挨拶とさせていただきたいと思っております。本当に本日はありがとうございました

○若林企画幹

本日は通信に不具合があり大変ご迷惑をおかけしました。発言の時間が十分に取れなかったため、改めて事務局から意見の照会をさせていただきたいと思っております。

以上をもちまして長野県観光振興審議会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。